

強みを活かした療育活動

R8.5.28

ワンステップ



相談支援事業所サクスシェア
相談支援専門員 田中 聡



アセスメントとは



インテークとアセスメント

【インテーク】 = 初回面談

申請者(=サービスを利用しようとする人)のニーズを吟味し、サービス提供の可否を決定するために行われる援助過程の入り口

インテークの目的：サービス利用の検討と**合意**をすること

アセスメントの目的：適切な利用計画を作成する上での情報収集、見立てをすること

アセスメントの定義

「一つ一つの情報を自分なりに解釈し」 + 「それらを組み立て」
生じている問題の成り立ち（メカニズム）をまとめ上げ、

- ・ 支援課題を抽出すること
- ・ その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを
明らかにすること

【アセスメントをする際の3つの軸】

- ① 生物（気質、発達、障がい、疾患）
- ② 心理（不安、葛藤、希望、認知、感情統制、防衛機制など）
- ③ 社会（対人関係の特徴や適応）

相談支援のニーズ整理

相談整理票『5ピクチャーズ』

受講番号:

受講者名:

本人氏名:

ざっくりと
箇条書き程度に

Pic.4: 生活ニーズアセスメント

●今、どのような困りごとがありますか？

- ・本人の想いに寄り添う
- ・本人の表現を使う
- ・本人の表現を助ける
- ・現状維持というニーズも対象

主語はI

アセスメントの要約
・100字程度でズレの
核心を表現する

Pic.2: こうありたいと思う状況

●今後どのような生活をしたいですか？

- ・夢や希望は大きいほうがよい
- ・その時の夢や希望でよい
- ・本人にとっての意味を理解する
- ・夢を語れる関係がまず必要

主語はI

Pic.3: 現在の状況

●今、どのような生活をしていますか？

- ・本人のプロフィール
- ・これまでと今の生活状況
- ・取り巻く環境(家族・住居・経済状況等)
- ・現在受けているサービス等

主語はI

Pic.5: 近づくための方法

●どうすれば近づけるとおもいますか？

- ・本人、環境のストレングスを活用する
- ・ニーズと資源との適切なマッチングはかたちのないものまで含めて柔軟に考える
- ・大きな夢や希望はブレイクダウンしてみる
- ・やれそうな選択肢を挙げてみる

主語はWe

Pic.1: 着目するストレングス

●どのようなストレングスに着目しますか？

- ・本人のストレングス
- ・環境のストレングス

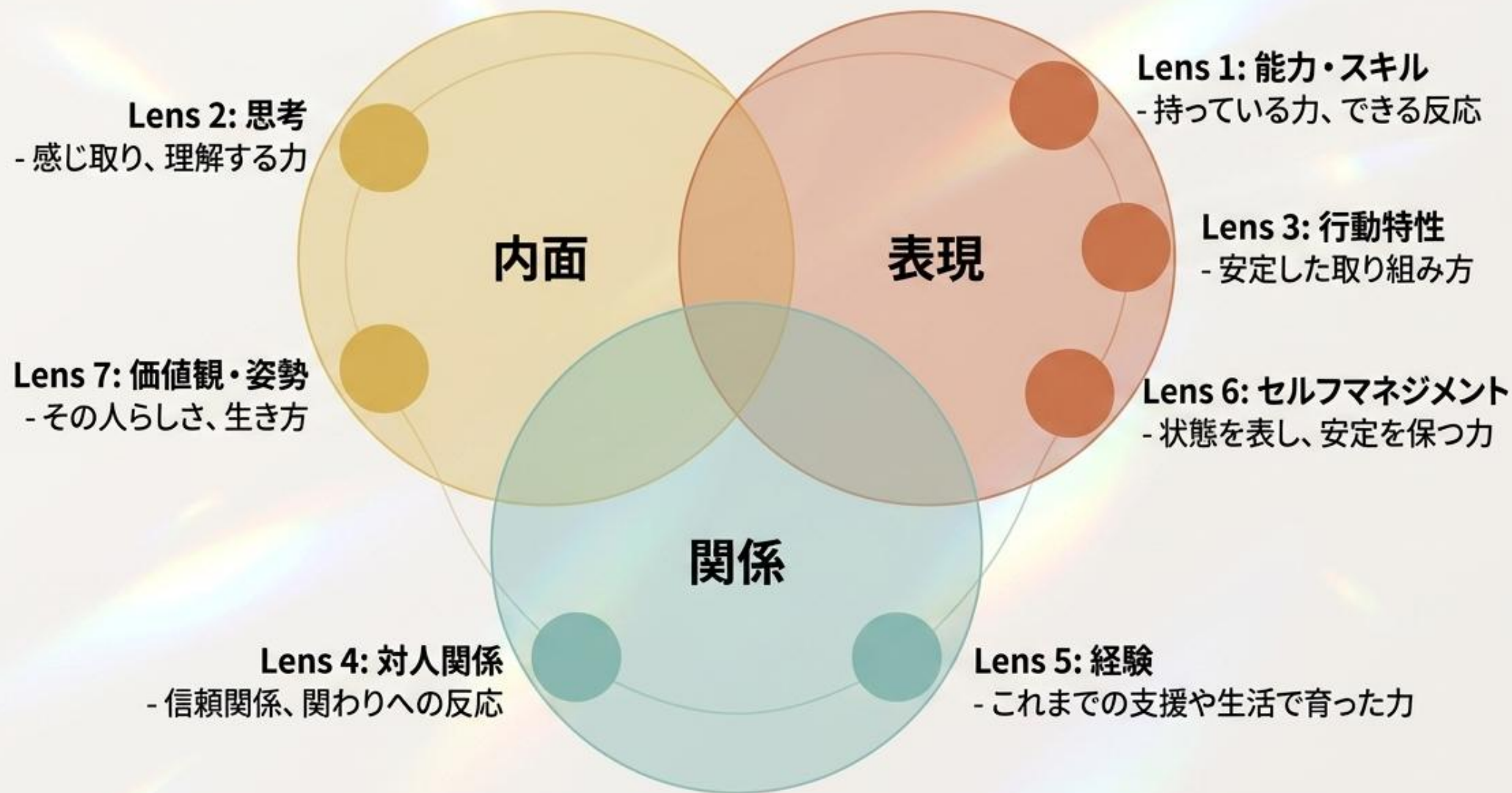
【みるポイント】

- ① 現在の状況の把握
(アセスメント)
「強み」と「苦手」
- ② 真のニーズの把握
- ③ ズレを埋める目標
設定の適切性
- ④ 支援方法の実効性
- ⑤ ストレングスの活用

アセスメントの視点（強み） 障がい児



強みを見つける7つのレンズ



視点 1: 能力・スキル

その子が実際にできること、得意な活動、身につけている力



絵や工作が得意



記憶力がある



音やリズムに敏感



視覚的に理解しやすい



タブレット操作が得意



手順を覚える力がある



体を使った活動が得意



観察メモ

「この子は視覚的な情報を使うと理解しやすく、
絵カードや写真を見ながら
活動に参加できます。」

視点 2: 思考

物事の考え方、気づき方、理解の仕方に関する強み



細かい違いに気づく



規則性を見つける



好きなことを深く考える



独自の発想がある



原因を考えようとする



先を予測できる



問題に気づく



観察メモ

「この子は細かな変化に気づく力があり、物の違いや順番の変化をよく見ています。」

視点 3: 行動特性

日々の行動パターン、取り組み方、続け方に関する強み



繰り返し取り組める



好きなことに集中できる



ルーティンを守れる



丁寧に作業できる



最後までやろうとする



まじめに参加する



慎重に行動できる



観察メモ

「この子は見通しがあると安心して行動でき、決まった手順に沿って活動に取り組めます。」

視点 4：対人関係

人との関わり方、気持ちの伝え方、周囲とのつながりに関する強み



人の気持ちに敏感



大人との信頼関係を
築ける



優しく関われる



友達をよく観察して
いる



少人数なら話せる



非言語で表現できる



挨拶や返事ができる

👁️ 観察メモ

「この子は言葉だけでなく、表情や視線、身振りで気持ちを伝える力があります。」



視点 5: 経験から生まれた強み

困りごとや支援を受けた経験から育った力



工夫する力がある



助けを
求められる



自分なりの
安心方法がある



違いを受け
入れやすい



支援ツールを
使える



失敗から学べる



困りごとに
気づける



観察メモ

「この子は困ったときに
カードを使って伝える経験
を重ねており、支援を求め
る力が育っています。」

視点 6: セルフマネジメント

自分の状態を知り、落ち着いたり調整したりする力



疲れに気づける



気持ちを表せる



落ち着く方法がある



見通しがあると安心できる



苦手な刺激を伝えられる



休憩を取れる



自分に合う方法
を使える



👁️ 観察メモ

「この子は疲れたときに静かな場所で休むと、再び活動に戻ることができます。」

視点7：価値観・姿勢

その子らしさ、物事への向き合い方、大切にしていること



素直さがある



正義感がある



好奇心がある



頑張ろうとする
気持ちがある



誠実に取り組む



自分らしい
表現がある



優しさがある



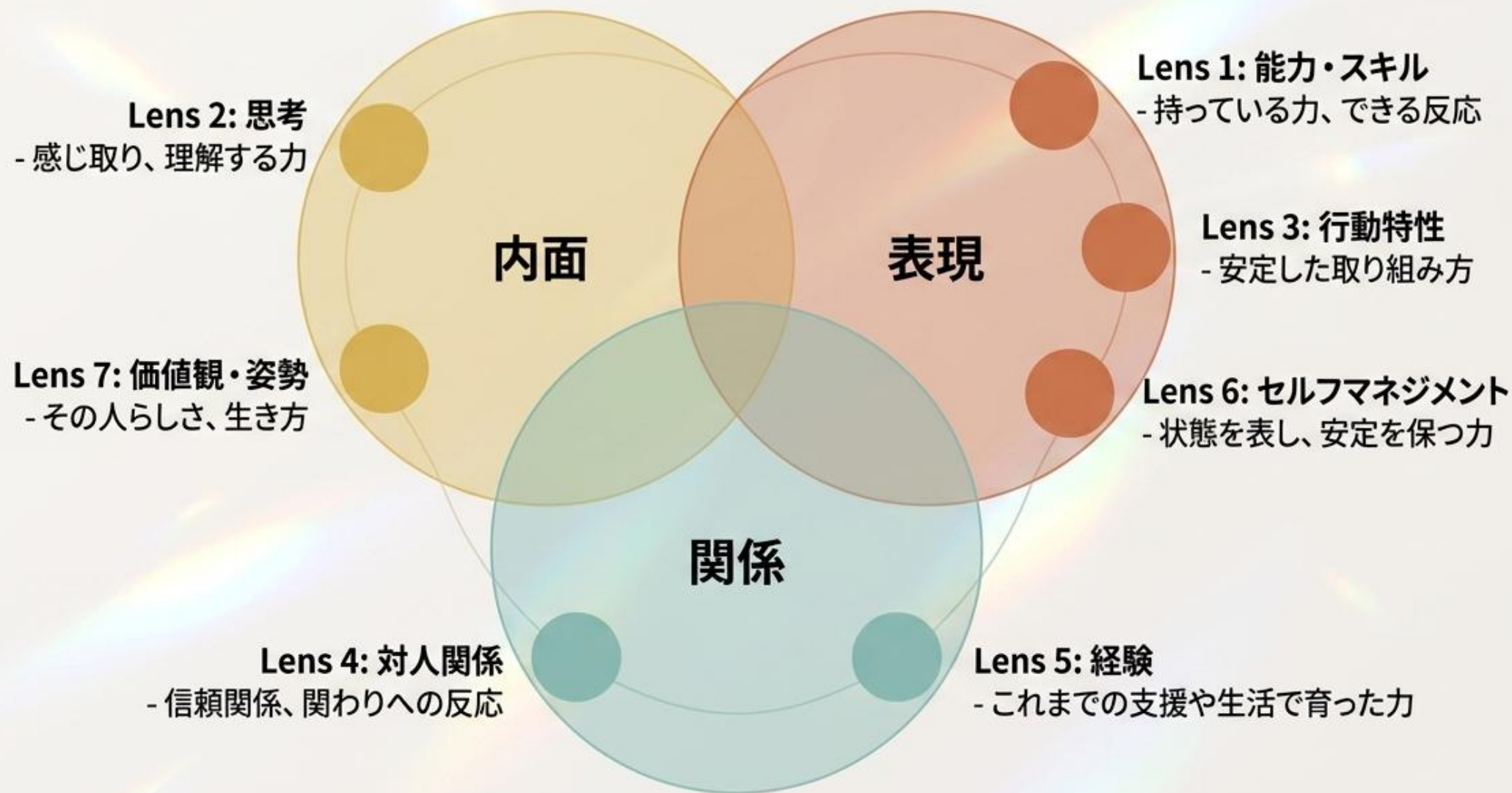
👁️ 観察メモ

「この子は好きなことへの好奇心が強く、興味をきっかけに学習や活動への意欲が高まります。」

アセスメントの視点（強み） 重度障がい者



強みを見つける7つのレンズ



Lens 1: 能力・スキルの強み - 本人が持っている力、できること、反応できること

Observation Card (観察カード)

 視線で意思を伝える:	好きな物を見る、選びたい物に視線を向ける
 表情で感情を表す:	嬉しいと笑顔、不快なとき表情が変わる
 音や声に反応する:	名前を呼ばれると顔を向ける、好きな音楽に反応
 身体の動きで伝える:	手足、首の向き、まばたきで意思を示す
 好き嫌いを示す:	好きな活動で落ち着く、苦手な刺激に反応する
 支援機器を使える:	スイッチ、視線入力、タブレットなどで意思表示
 習慣化活動への参加:	食事、入浴、移動などで自分なりに協力する

“

個別支援計画への記載例

「この方は言葉での表現は難しいですが、視線や表情によって快・不快や選択の意思を伝える力があります。」

Lens 2: 思考の強み - 感じ取る力、理解する力、予測する力、選ぶ力

Observation Card

- | | |
|---|-----------------------|
|  環境の変化に気づく: | 人、場所、音、雰囲気の変化に反応する |
|  好きなものを覚えている: | 好きな人、音楽、活動に安定して反応する |
|  見通しがあると安心する: | いつもの流れになると表情や身体が落ち着く |
|  選択できる: | 2つの物のうち、好きな方に視線や手を向ける |
|  不快な刺激に気づける: | 音、光、姿勢、温度などに反応して伝える |
|  人の雰囲気を感じ取る: | 支援者の声の調子や態度に反応する |
|  自分なりの理解がある: | 繰り返し経験した活動では次の動きを予測する |

“

個別支援計画への記載例

「この方は環境や人の変化に敏感で、安心できる状況と不安な状況を表情や身体の反応で示すことができます。」

Lens 3: 行動特性の強み - 日常生活や活動への取り組み方、安定した反応の仕方

Observation Card

 決まった流れで安心:	同じ手順だと落ち着いて活動に参加できる
 好きな活動に集中:	音楽、感覚遊び、散歩などに反応が続く
 支援に合わせて参加:	介助を受けながら、身体を預けたり動かしたりする
 繰り返して慣れる:	初めは不安でも、経験を重ねると落ち着ける
 自分のペースを持つ:	ゆっくりした関わりの中で反応を返せる
 安定した生活リズム:	生活の流れが整うと体調や気持ちが安定しやすい
 小さな変化の積み重ね:	少しずつ姿勢保持、意思表示、活動参加が広がる

“

個別支援計画への記載例

「この方は急な変化には不安を示しますが、見通しのある手順では落ち着いて活動に参加できます。」

Lens 4: 対人関係の強み – 人とのつながり、信頼関係、関わりへの反応

Observation Card

 安心できる人に反応:	家族や慣れた支援者の声で表情が和らぐ
 関わりを受け止める:	声かけ、触れ合い、視線のやりとりに反応する
 人を区別できる:	好きな人、安心できる人に特有の反応を示す
 一緒に過ごす力:	周囲の人と同じ空間で落ち着いて過ごせる
 気持ちを共有できる:	笑顔、発声、身体の動きで嬉しさを表す
 関わるきっかけを作る:	その人の反応が、支援者や家族の会話を生む
 信頼関係を育てる:	継続した関わりの中で安心感が深まる



個別支援計画への記載例

「この方は慣れた人の声かけに笑顔や発声で応じることがあり、人との関係の中で安心感を示す力があります。」

Lens 5: 経験から生まれた強み - 生活、医療、福祉、家族との関わりの中で育った力

Observation Card

- | | |
|--|-------------------------|
|  介助を受け入れる力: | 食事、移乗、入浴などで身体を預けられる |
|  支援方法を身につけている: | その人に合った姿勢、声かけ、道具で安定できる |
|  苦手なことを伝えられる: | 不快感を表情、緊張、声、動きで知らせる |
|  安心できる方法がある: | 好きな音楽、姿勢、物、人によって落ち着ける |
|  ケアや支援に慣れている: | 必要な医療的ケアを受けながら生活を続けられる |
|  周囲に気づきを与える: | 支援者が環境や関わり方を見直すきっかけになる |
|  多くの人と関わった経験: | 家族、医療職、福祉職、教育関係者との関係がある |

“

個別支援計画への記載例

「この方は長年の生活経験の中で、自分に合う支援方法を周囲と共有してきた強みがあります。」

Lens 6: セルフマネジメントの強み

- 自分の状態を表し、周囲の支援を通じて安定を保つ力

Observation Card

📶 体調の変化を示せる:	表情、呼吸、筋緊張、眠気、食欲などが分かる
😞 疲れを伝えられる:	反応が弱くなる、目を閉じる、身体が緊張する
😞 不快感を表せる:	姿勢、音、温度、痛みなどへの反応を示す
🧘 落ち着く方法がある:	静かな場所、安心できる姿勢、好きな刺激で整う
🤝 支援を受けて調整できる:	休憩、姿勢変換、環境調整で状態が安定する
📅 生活リズムで安定できる:	食事、睡眠、活動、休息の流れが整うと安定する
💬 周囲にサインを出せる:	小さな変化を通して「今の状態」を伝えられる

Profile Spotlight

個別支援計画への記載例

「この方は疲れや不快感を表情や身体の緊張で示すことができ、周囲が早めに対応することで安定して過ごせます。」

Lens 7: 価値観・姿勢の強み - その人らしさ、生き方、好きなこと、大切にしている関わり

Observation Card

♡	好きなものがはっきりしている:	好きな音楽、人、場所、活動に明確な反応
☺	穏やかさがある:	安心した環境で周囲を和ませる存在になる
👉	人を引きつける力:	その人の反応や表情が周囲の関心や愛着を生む
✍	自分らしい表現:	言葉以外の方法で感情や意思を表す
🌱	生きる力がある:	医療的・生活的な支援を受けながら日々を過ごす
📖	周囲に学びを与える:	支援者に観察力、配慮、待つ姿勢を育てる
👥	存在が関係をつくる:	家族、支援者、仲間のつながりの中心になる



個別支援計画への記載例

「この方は好きな音楽や安心できる人への反応が豊かで、その人らしい楽しみ方や関わり方を持っています。」

アセスメントの方法（見える化）



強みを見つける観察のポイント

Macro-Group	カテゴリ	見るポイント
基礎的な力	 能力・スキル	何ができるか、何が得意か
	 思考	どう考え、何に気づくか
関わりと取り組み	 行動特性	どう取り組むか、続けられるか
	 対人関係	どう人と関わるか
内面と自己調整	 経験	困りごとから何を学んでいるか
	 セルフマネジメント	自分をどう整えるか
	 価値観・姿勢	その子らしさ、大切にしていること

支援記録・個別支援計画のための「観察ポイント」マトリクス

【能力・スキル】	視線、表情、動き、支援機器などで「何ができるか」
【思考】	何を感じ取り、何を理解し、「何に反応しているか」
【行動特性】	どんな流れや環境で「安定して参加できるか」
【対人関係】	誰と、どのように「安心して関われるか」
【経験】	これまでの生活や支援の中で「育った力は何か」
【セルフマネジメント】	体調、疲れ、不快感、安心を「どう示しているか」
【価値観・姿勢】	その人らしさ、好きなこと、「大切にしている関係は何か」

日々の支援記録や個別支援計画にこの7カテゴリを当てはめることで、
本人の強みをより具体的に整理し、チーム全体で共有できます。

【アセスメント書式】

一次アセスメント票(児童)									
受付番号					訪問者氏名	相談支援専門員			
訪問日	令和	年	月	日	曜日	対応者氏名	続柄		
訪問目的									
ふりがな					性別	生年月日		令和 年 月 日 歳	
氏 名									
住 所	〒								
連絡先	自宅 092 -				携帯				
	FAX 092 -				メール				
家 族 状 況	続柄	氏名	年齢	職業・学校	同居／別居		特記事項		
					☐ 同居 ☐ 別居				
					☐ 同居 ☐ 別居				
					☐ 同居 ☐ 別居				
					☐ 同居 ☐ 別居				
					☐ 同居 ☐ 別居				
ジ ェ ノ グ ラ ム					主支援者 → 主	居住 環境	☐ 自宅(単身)		
					副支援者 → 副		☐ 自宅(家族と同居)		
				本人 → ☒ ☒	☐ GH・CH				
				男性 → ☐	☐ 病院				
				女性 → ☐	☐ 施設				
				死亡者 → ☐ ☒	☐ その他				

生
活

書式を埋める ≠ アセスメント

【重要な 1 ページ】

生活歴をしっかりインテークすることにより、なぜ、福祉サービス等を利用する必要があるのかを明確に分析する。

そして、このシートは、付加・修正されていくことが原則。



インタセアセスメントの内容

- 1 なぜ、その福祉サービス等を利用しようと思ったのか？（保護者・本人）
- 2 何が本人、もしくは家族の課題・願いなのか？（表のニーズから真のニーズを導き出す）
- 3 課題・願いの具体的な経過説明（いつから？ どこで？ どんな状況？ 期間？ 程度は？など）
- 4 課題・願いの理解に必要な関係機関（学校・医療・併用事業所・地域社会資源など）の情報
- 5 本人・家族は、その課題・願いをどのように感じ、考えているのか？
- 6 課題・願いは、本人や家族が日常生活を営むのにどれほどの支障・影響を生んでいるのか？
- 7 課題・願いは、どのような発達段階で起きていることなのか？（課題の要因分析・ストーリー化）
- 8 本人の成育歴（成長過程で起こったできごとやエピソード、家族や身近な人との関係性）
- 9 本人のもつ特技、よさ、長所、強みはなにか？
- 10 本人の性格傾向、価値観は何か？など
- 11 その課題の解決、願いの実現に際し、どのような働きかけがなされてきたか？その予定は？
- 12 課題・願いに影響を及ぼしているキーパーソンはだれか？（よくも悪くも）
- 13 課題・願いについて、影響を及ぼしている人以外の環境や仕組み、決まりなどがあるか？
- 14 課題・願いを解決するにあたって、利用・活用できる人的・物的・社会資源は何か？
- 15 本人のどのようなニーズが満たされれば、問題解決、願いの実現に向かうのか？
- 16 本人は、生活や自分の状態をどのようにしていきたいと思っているのか？

アセスメントで心がけること

聴く

質問する（知る）

一緒に悩む（共感）

一緒に考える

情報を提供する

つなぐ

「傾聴」チェックリスト

- ① ☐ 「話す」ことよりも「聞く」ことに時間を割いている。一方的に話さない。
- ② ☐ 相手の言葉に割り込まない、さえぎらない、結論を先取りしない。
- ③ ☐ 相手が話している時、別のことを考えたり相手の考えを先読みしたりしない。
- ④ ☐ 話が理解できているフリをしない。
- ⑤ ☐ タイミングよくうなづいたり、相槌を打ったりする。
- ⑥ ☐ 視線を合わせる。
- ⑦ ☐ 相手の態度や身振り手振り、表情、声の調子などの様子から情報を受け取る。
- ⑧ ☐ 相手の言葉を受け止めている。聞きっぱなしにしない。
- ⑨ ☐ コメント、アドバイスは、相手の同意を得てから行う。
- ⑩ ☐ 沈黙を受け入れられる。
- ⑪ ☐ 相手の言葉を反復する。（「聞いている」意思表示と内容確認のため）
- ⑫ ☐ 「聞いている」というサインを送る。

チェックの数を記入

点

アセスメントの方法（情報源）

- ・ 観察（自然観察・仮説検証観察）
- ・ 面接（本人や保護者、関係者からの聞き取り・情報収集）
- ・ 質問紙法（アンケート）
- ・ 検査法（学力検査 知能検査 性格検査 投影法
人間関係検査 作業検査法 各種心理検査）
- ・ ポートフォリオ（連絡帳 写真 創作作品 絵画 感想文など）

「見えない強み」を可視化する方程式



強みは本人の中だけにあるわけではありません。
本人が発するサインに対して、支援者がどう理解し、どう環境を調整するか。
この掛け算によって初めて『強み』は姿を現します。

視点の転換：可能性を見つけるリフレーミング



大切なのは、「できないこと」だけを見るのではなく、
「どんな条件ならできるか」まで見ることです。

ほめ方の考え方

(楽々かあさんHP)

	障害特性	リフレーミング（強みの表現に変換）
1	ことばを聞いて理解することが苦手	目で見た情報は理解しやすい
2	表情や身振りを、誤って理解してしまう	明瞭に（はっきりと）区別された指示を好む
3	人や場面によって態度を変えられない	ルールをきっちり守ろうとする。物怖じしない
4	他の人の興味あることに関心が薄い	状況に左右されず、自分の好きなことに取り組むことができる
5	全体をとらえて関係性をつかむことが苦手	細部に、強く意識を向けることができる
6	別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手	状況に左右されず、ねばり強く取り組むことができる
7	集団で一斉に行動することが苦手	マイペースに課題を完了することができる
8	「いつ終わる」かを理解するのが苦手	決められたことをやり続けようとする
9	抽象的、あいまいなことの理解が苦手	具体的で、はっきりしたことを好む
10	経験していないことを想像することが苦手	経験したことは、しっかりと覚える
11	特定の物事に強く固執	興味があること（趣味・仕事）に、積極的に取り組める
12	規則することが苦手	繰り返し体験することで記憶する
13	発達（認知能力）がアンバランス	興味・関心。好きなことは抜群にできる
14	特定の行動を何度も繰り返してしまう	決まったパターンを几帳面に行うことができる
15	期待されていることに注意が向かない	興味・関心があるものに、強く注意・集中を向けることができる
16	特定の感覚が過敏、または鈍い	些細な違いや変化に気が付くことができる、または非常に我慢強い